

神はデボラをイスラエルの士師として、
またイスラエルの母として立ち上がらせる。
デボラは男に対する女の服従を実行し、
神の定めを守り、神の王職と頭首権の下で、
全イスラエルを正しい秩序へともたらしめた

聖書：士第4章—第5章

I. 士師記が見せているのは、イスラエルが彼らの王としての神を拒絶することによって、神を怒らせたということです。もしわたしたちが、わたしたちの王、わたしたちの主、わたしたちのかしら、わたしたちの夫としての神を拒絶するなら、それは神の目に大きな悪、大きな邪悪です——サムエル上8:7. 12:17, 19. 士21:25. 17:6. ルカ19:11-14. エレミヤ11:13. エゼキエル16:24:

A. わたしたちは絶えずキリストを、わたしたちの王、わたしたちの主、わたしたちのかしら、わたしたちの夫とし、経験し、享受すべきです。それは、彼がわたしたちの祝福となり、わたしたちを、聖徒たちとすべての召会に対する祝福の経路とすることができるためです——マタイ2:2. ヨハネ1:49. ヘブル7:2. イザヤ32:1-2. 33:22. ピリピ2:9-11. ローマ14:6-9. II コリント4:5. コロサイ2:19. エペソ1:22-23. II コリント11:2-3. ホセア2:19-20. 民6:23-27. 詩128:5. 48:2.

B. マタイ第1章1節は、キリストが「ダビデの子であり、アブラハムの子である」と語っています:

1. わたしたちは反逆的であるので、悔い改めて、キリストをダビデの子として受け入れる必要があります。すなわち、わたしたちの権威として、わたしたちの主権者また王として受け入れる必要があります。それは、彼が神の王国において、わたしたちの中で、またわたしたちの上で支配するためです。

2. わたしたちはキリストをダビデの子、すなわち、さらに大いなるソロモンとして持つなら、わたしたちはまた彼をアブラハムの子、すなわち、実際のイサクとして持ちます。これが意味するのは、わたしたちがキリストをわたしたちの王（ダビデの子）とすればするほど、ますます彼の支配の下におり、そして彼の支配の下にいればいるほど、ますます彼をわたしたちの祝福（アブラハムの子）として享受するということです。これは、すべてを含む霊として究極的に完成された、手順を経た三一の神の祝福です——マタイ1:1. ガラテヤ3:14, 16, 29.

3. これはわたしたちを、その信仰に対する聖徒たちの進歩（命における彼らの成長）のための、またその信仰に対する彼らの喜び（キリストに対する彼らの享受）のための、祝福の経路とならせます。わたしたちは他の人を祝福するように召されたので、祝福された人として、常に他の人を祝福し、祝福を受け継ぐようにすべきです——ピリピ1:25. I ペテロ3:9.

II. 神はデボラをイスラエルの士師として立ち上がらせました。デボラは男に対する女の服従を実行し、神の定めを守り、神の王職と頭首権の下で、全イスラエルを正しい秩序へともたらしめました——士第4章—第5章:

- A. エホデが死んだ後、イスラエルの子たちは再びエホバの目に悪を行なったので（士4:1）、エホバはイスラエルを、カナン王ヤビンの手に売り渡しました。彼の軍勢の長はシセラでした。彼は鉄の戦車九百両を持ち、イスラエルを二十年の間ひどくしいたげました——士4:2, 3後半。
- B. 士師記第4章の時に、イスラエルの男たちは、リーダーシップという神の定めた彼らの機能において失敗していました。これは神に強いて、一人の女デボラをイスラエルの士師として起こすという特別な、尋常でないことを行なわせました。そのような女が起こされたことは、イスラエルの状況全体を変化させました——士4:4-5。
- C. イスラエルの子たちはエホバに叫び求め（士4:3前半）、そして女預言者デボラがイスラエルの士師として起こされました。彼女はデボラのしゅろの下に常に座っていました。イスラエルの子たちは裁きのために、彼女の所に上って行きました（4-5節）。
- D. 聖書で正常な女は、神に服従する者、神の定めを守る者を示します。これはイスラエルが、自分たちの王、主、かしら、夫としての神の御前に取るべきであった地位ですが、イスラエルは神の定めを違反し、神の妻としての地位を離れ、彼を捨てて多くの偶像に転向しました。これがイスラエルを悲惨な状況と状態にもたらしたのです：
1. サムソンは彼の母の胎内にいる時から、彼の生涯の全行程にわたってナジル人でした。ナジル人は、髪の毛を伸びるままにしておくべきでした。これは、彼が主の頭首権への服従にとどまっているべきであったことを表徴します。服従することに力があります——民6:5. 士16:17. Iコリント11:3-6, 10, 15。
 2. しかしデリラは毎日、自分の言葉をもって彼に迫り、しつこくせがんで、彼の力の秘密を彼女に告げさせようとしたので、「彼の魂は死ぬほどつらく」になりました（士16:16）。サタンの疲れ果てさせる戦術のゆえに、サムソンはサタンの罠へと陥り、彼の髪の毛はデリラによってそられ、彼はペリシテ人に捕らえられ、彼のナジル人の献身、彼の力、彼の聖別の証し、神の臨在を失いました（ダニエル7:25）。
 3. 信者たちは神によって立てられた代理権威に服従すべきでないという、異なる間違った教えを受け入れる者は、この教えによって駄目にされます。わたしたちには（特に結婚した姉妹たちには——エペソ5:22-24）、服従する霊、立場、雰囲気、意思があるべきです。あなたがそのような人であるなら、あなたに、またあなたの将来に大きな祝福があるでしょう。
- E. わたしたちが士師記第5章のデボラの歌を読むことによって見ることができるのは、彼女が能力、才能、洞察力、先見性に満ちていたのに、そのような卓越した有能な人が、とても服従していたということです。神は彼女をリーダーにしましたが、彼女は正しい秩序を守り、バラクを彼女のおおいとしました——士4:6-9. 参照、Iコリント11:3-6, 10。
- F. デボラは、男が彼女のおおいとなる必要があることを認識していました。それは、パウロがIコリント第11章3節で次のように言っているようにです。「キリストはあらゆる人のかしらであり、男は女のかしらであり、神はキリストのかしらです」。

G. この卓越した非凡な女が率先して男に対する女の服従を実行したとき、国全体がすばらしい正常な秩序にもたらされました。すべてのリーダーが統率し、すべての民が従い、軍隊が編成されました。すべての人がエホバの御前で自分の正しい地位に戻りました。

H. こうして、デボラは彼女の歌の中で次のように言うことができました、「リーダーたちはイスラエルの中で統率し、民は喜んで自らをささげたゆえに、エホバをほめたたえよ。……その時、生き残りの高貴な者は下って行った。エホバの民はわたしと共に、勇士たちに向かって下って行った」——士5:2, 13。

I. 召会における姉妹たちの第一で最大の機能は、服従することです。姉妹たちがこの学課を学ぶことができるなら、召会は強くなり、豊かになり、新しくされます：

1. 服従することは、命の供給、恵みの享受、十字架の働くこと、自己を否むことを必要とします。

2. キリストで満ちている人は、服従で満ちています。主は彼の生涯にわたって服従し、彼の服従と従順の命をわたしたちに与えました——ピリピ2:5-11. ヘブル5:7-9。

3. 姉妹が兄弟と結婚することが意味するのは、彼女が進んで自分自身をささげ、「わたしは進んで服従します」と言うことです。もしある姉妹が心の中で、結婚しようとしている人に服従する意図が決してなかったなら、彼女は彼の妻となるべきではなく、彼と結婚すべきではありません——エペソ5:22-23. I ペテロ3:1-6。

III. デボラはイスラエルの士師としてだけでなく、イスラエルに母として立ち上がりました——士5:7：

A. 召会生活が実行において頂点に達するとき、あらゆる召会に何人かの真の母がいるべきです。ローマ第16章13節でパウロは次のように言います、「主にあって選ばれたルポスと、彼の母によろしく、彼女はわたしの母でもあります」：

1. 使徒パウロは母を必要としていました。顧みる母としての姉妹がいなければ、主の奉仕のために負担を担うすべての人は悲しむでしょう。わたしたちはみな霊の母の顧みを必要とします。その人たちの顧みは、わたしたちの真の養い、またわたしたちの真の保護です。

2. パウロが霊の母を持っていたことが示すのは、ローマにおける召会生活の中の聖徒たちが、キリストの十字架と復活を通して命の転換を持ったということです。命の転換を持つ最上の道は、パウロの模範に従うことによります。彼は、すべてを含むキリスト、十字架につけられたこの方のほかは、何も知るまいと決心しました——I コリント2:2。

B. ヨハネによる福音書は命についての書です。それは天然の命についてではなく、転換し造り変えられた命についてです。本来、ヨハネはマリアの息子ではなく、マリアはヨハネの母ではありませんでした。しかし、キリストの命を解き放つ死によって、彼の命を分与する復活によって、彼と彼の愛する弟子たちとの命の結合によって、彼の愛する弟子たちは彼と一になり、彼の母の息子となることができ、彼女は彼の愛する弟子たちの母となることができたのです——ヨハネ19:26-27。

C. わたしたちの第一の関係は肉の中にありますが、第二の関係は霊の中に、すなわち、

転換した命の中にあります。わたしたちは第二の誕生を持っているので（ヨハネ3:6）、確かに第二の関係、すなわち、真の姉妹たち、また真の母たちとの第二の家族関係を持っています。

- D. 姉妹たちが祈りと信仰の霊を活用して真の母となるなら（Ⅱコリント4:13）、自分がいかに利己的で、いかに自分自身の中にいるかを認識するでしょう。霊の中で良い子供たちを持つことは、彼女たちを極みまで暴露します。さらに、姉妹たちが命において成長し、円熟するのは、何人かの霊の子供たちを顧みることによってです。
- E. 姉妹たちが主を愛し、真剣になって主の回復における召会生活のためであるなら、自分自身を奉仕する看護師、召会の看護師と考える必要があります。彼女たちは真の病院としての召会の中で、看護する顧みを与えます。すべての姉妹は祈りによって奉仕する姉妹となり、愛という最も卓越した道によって愛する母となる必要があります。それは、必要のある人たちや若い人たちを、彼らの霊的な生活と召会生活の中で助けるためです。これが、祝福、成長、霊性、主に対する真の享受を受ける最上の道です——ローマ16:1-2, 13. イザヤ66:12-13. Iコリント12:31後半. 13:4-7.

IV. 聖書は、その当時、神の民の間では、「心に大きな決意」があり、また「心に大きな探求」があったと言っています——士5:15-16:

- A. 大きな決意を持つことは、固い決心をすることです。大きな探求を持つことは、主に生き、主を生かし出すという計画を立てることです。それは主のからだを建造し、彼の花嫁を用意し、彼の王国の出現をもたらすという、彼の最新の回復のためです——Ⅱコリント5:14-15. ローマ14:7-9. 啓19:7-9.
- B. リー兄弟が1943年に日本の憲兵によって圧迫される過程にあったとき、主は彼に一つの夢を与えました。彼はその中で、朝に夜が明けるような夜明けと、広い大路が、とても明るく、とても真っすぐで、果てしなく伸びているのを見ました。これは主の回復の広い大路、昇る太陽、果てしない将来です——参照、箴4:18.
- C. わたしたちは、デボラが彼女の歌の終わりで記述している者のようになることを切望し、祈る必要があります。その歌は栄光なる方法で次のように結ばれています。
「彼を愛する者たちは、力強く昇る太陽のようになりましょうように」——士5:31:
 - 1. 太陽が力強く昇ることは、太陽が明るく輝き、きらめきをもって輝き、栄光をもって輝くことを意味します。すべての召会が、決意すること、探求すること、昇る太陽のように輝くことを経験しようとするなら、彼らは確かに主を彼らの勝利として享受します。
 - 2. 勝利者たちは、義の太陽としてのいやすキリストで再構成されており、彼らの御父の王国で太陽のように輝きます——マラキ4:2. ルカ1:78-79. マタイ13:43.